

平成30年度

豊田市交通安全市民会議

# 交通安全作品集

## 豊田市議会議長賞

### 豊田市長賞



中 智奈望 (上郷中3年)



石川 匠 (若林西小5年)

## 豊田警察署長賞



波多野 葉月 (豊田西高1年)

## はじめに

豊田市交通安全市民会議では、交通安全ポスター・交通安全作文・交通安全標語を募集しています。これは、作品の制作を通して作者自身の交通安全意識を高めていただくとともに、作品を公開することにより、多くの方へ交通事故撲滅の願いを届けたいと考えています。

今年もたくさんの交通安全作品の応募をいただきました。この「交通安全作品集」に掲載した作品は、工夫されたデザインや、力強くあるいは繊細に描かれたポスター、交通事故の恐ろしさ、悲しさ、心構えなどをつづった作文、そして簡潔でわかりやすく交通安全を訴えた標語で、いずれも厳正な審査を経て選ばれた、すばらしい作品ばかりです。

この「交通安全作品集」を多くの方にご覧いただき、皆様の交通安全意識の高揚と交通事故防止にお役立ていただければと思います。最後に、交通安全ポスター・交通安全作文・交通安全標語をご応募いただきました多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

豊田市交通安全市民会議

会長 古川 利 孝

# 目次

## 交通安全作文の部

《最優秀作品》 6点……………1ページ

①豊田市長賞	岩城 桃子	豊田西高等学校	1年
②豊田市議会議長賞	梶山 琥大朗	五ヶ丘小学校	2年
③豊田警察署長賞	松井 美羽	高橋中学校	3年
④足助警察署長賞	谷澤 瑛斗	寿恵野小学校	4年
⑤豊田市教育委員会賞	小川 友唯奈	前林中学校	3年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	澤野 友暉	豊田高等学校	1年

《優秀作品》 3点……………7ページ

## 交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点……………表紙・裏表紙

①豊田市長賞	中 智奈望	上郷中学校	3年
②豊田市議会議長賞	石川 匠	若林西小学校	5年
③豊田警察署長賞	波多野 葉月	豊田西高等学校	1年
④足助警察署長賞	鈴木 智也	大蔵小学校	1年
⑤豊田市教育委員会賞	中島 咲那	中山小学校	4年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	小澤 一輝	竜神中学校	1年

《優秀作品》 12点……………10ページ

《佳作作品》 30点……………12ページ

## 交通安全標語の部

《最優秀作品》 1点……………17ページ

①豊田市交通安全市民会議会長賞	梅村 宗純	井上小学校	5年
-----------------	-------	-------	----

《優秀作品》 11点

《佳作作品》 13点

交通安全まんが……………19ページ

## 『私の交通安全への思いと願い』

豊田西高等学校 一年 岩城 桃子

私の曾祖父は大型トラックにはねられ、亡くなりました。即死でした。事故はもう何十年も前の、私の母が子どもの頃の出来事です。だから、私は曾祖父の顔を知りません。一〇一歳まで生きた曾祖母からよくその事故の話を聞いて育った私は、優しくとても子どもが大好きだったという曾祖父に会いたいという気持ちを、今でも募らせています。

連日のようにニュースや新聞で交通事故の報道がなされています。今日のような車社会と時間に追われるあわただしい毎日、おかしな言い方なのかもしれませんが、事故が起こらない方が珍しいのかもしれませんが、それくらい、車が生活に密着しており、その車と歩行者と自転車、バイクが共存していて、車のドライバーも歩行者や自転車の利用者にもなります。ドライバーは加害者にも被害者にもなりうるのです。前述した事故の日、私の母は曾祖父の、母から見れば祖父ですが、学校に連絡があり、病院に連れられ、息を引き取った祖父と対面したそうです。大型トラックにはねられた曾祖父の身体は至る所から出血していて、とてもひどい状況だったようです。突然のことに周りの大人たちは泣き崩れ、母はよく状況が飲み込めずにその場に立ち尽くしていたと聞きました。お葬式の日、刑事さんに連れられたトラックの運転手さんが来て、何度も頭を下げていた光景を鮮明に覚えていると言っていました。母はその出来事があつて以来、車に乗せてもらうのが怖くなり、運転免許を取得できる年齢になっても、なかなか自動車学校に通う勇気が出なかつたそうです。社会人になって数年がたった頃、仕事の都合でどうしても車に乗らないといけない状況が生じ、覚悟を決めて免許を取得したと聞きました。母は日常生活で車を運転していますが、決してスピードを出さず、当たり前のごとですが一時停止のときは何度も何度も安全確認を

してアクセルを踏みます。「命を乗せて走っているから」母がハンドルを握っているとき、よく口にする言葉です。私はそんな母の運転に信頼を寄せて後部座席に座ります。しかし、いくら気をつけていても事故は起ることがあります。そついつ確率を少しでも少なくするために母は通い慣れた道以外の行き先へ行くときや旅行の時は一切車に乗りません。必ずバスや電車で行きます。そのことで多少不便を感じたり、お金がかかったとしても「命の値段」より高いものはないのだから。私はそんな母の考えは間違っていないと思います。公共交通機関を利用することで、環境にも良いし、渋滞緩和にも役立つしていると考えます。

私は高校には毎日バスに乗って通っています。私がお世話になっているバスの運転手さんは毎日安全運転で運行しており、私は無事に通学できていることに感謝しています。しかしながら、あおり運転、信号無視、スピード違反など数々の反則行為は一向になくなりません。違反運転をするドライバーはおそらく心のゆとりがないのでしょう。心のゆとりがなくなる原因に、いろんな事情があるのでしようが、事故が起こってしまったらどんな事情も言い訳にはなりません。被害者となってしまう人はもちろんのこと、加害者となってしまう人にも人生があり、社会での役割があり、家族があるのです。被害者側は身体の傷、心の傷を負い、辛い思いをします。加害者側も償いの日々を送ることになります。そんな人が少しでも減らせるよう、心のゆとりを持たなくてはならないのです。

事故を起こさないようにするためには、家を出る時間を十分早くする、道路を渡る時にはドライバーと目を合わせるようにする、周りの状況を見るためスマホをしながら歩かないなど、当たり前でいて当たり前前に実践する。心のゆとりが持てる行いをするのが事故を減らす第一歩だと思いました。



# 『かぞくのこのちびな』

五ヶ丘小学校 二年 梶山 琥大朗

ぼくのかぞくはおとうさん、おかあさん、おひいちゃん、いもちゃん、ぼくの五人かぞくです。

一年生のあきかぞくでみかんがりに行くとき、こうぞんどうで、じこにあいました。車がよこになっていたり、くちやぐちやになっていました。おとうさんの車も、中から白いけむりが出てもう動けなくなっていました。

じこをしたときに、ぼくはうんてんをしているおとうさんのとなりのせきにすわってゲームをしていました。おとうさんに言われてシートベルトもちゃんとつけていました。「バーン。」とぶつかった音がしたときは、白いけむりだらけで、なにがおきたのか分からなくて、ないたのを思い出します。

あたまがいたかったので、ぼくはきゅうきゅうしゃではごばれました。そのときに、きゅうきゅうたいいんの人から、「シートベルトをつけていてよかったね。」と、言われました。もし、シートベルトをつけていなかったら、車の外にとんでいってしまって、大きなケガをしていたかもしれません。

シートベルトをつけていたおかげで、だれも大きなケガをしなかったのはすばらしいことだと思います。

じこがあつてからはシートベルトをつけるときにしっかりつけられているか見るようになりました。だってシートベルトは、ぼくにあっていのちをまもってくれる大切なものだからです。もちろん、かぞへにも、「おやちゃん」とつけてね。「お、お、言いつけましたよ。」



## 『意識改革』

高橋中学校 三年 松井美羽

私は最近、自転車に乗って出かける機会が増えました。友達と塾に行ったり、部活で必要なものを買に行ったりしています。私の通っている塾までは、自転車で5分ほどです。しかし、そのたった5分の間に、たくさん危険な運転をしている自動車や自転車を見かけます。特に、『ながらスマホ』をしている人が本当に多いです。私は、このような人を見ると心が悲しくなります。

私がすごく危険だと思うのが、自動車を運転しながらスマートフォンを使って電話をしたり、メールをしたり、ゲームをしたり、音楽を聴いたりしていることです。スマートフォンは何でもできて、とても便利だと思います。しかし、音楽を聴くなどイヤホンをしていると周りの音が聞こえなくなり、救急車のサイレンの音、危ないと思い鳴らしたクラクションの音。こんな大事な音を聞き逃してしまいます。

自転車も同じだと思います。自転車は自動車と違い免許証がありません。だから誰でも使うことができます。しかし、道路交通法上、自転車も自動車と同じ車両です。事故を起こしてしまったらどんな人でも加害者になってしまいます。このことを忘れてはいけないと思います。

私は以前に、交通安全学習センターでイヤホンをつけて歩くという体験をしました。そうすると周りの音が全然聞こえなくなり、うしろから何かが来ても気付くことができませんでした。もしこれが自転車や自動車だったらもっと危ないと思いました。

また、『歩きスマホ』をしている人もよく見かけます。画面を見ながら歩いているので視野がせまくなり、足元しか見えません。もし前から来る人も歩きスマホをしていたら、ぶつかってしまいます。それが自転車だったら、自動車だったら……。本当に怖いです。自転車、自動車の人

が注意してくれるから大丈夫という相手に甘える気持ちはだめだと思えます。『自分の命は自分で守る』のように弱い歩行者の人こそ注意しないといけないと思いました。

先日、弟が自転車で出かけると言い、急いで出ていきました。そんな弟を外で母と見送りました。

「気を付けてね。いつごろっしょ。」  
「いってきます。」

と言った瞬間に、弟は何もないところで転びました。その時は何だかおもしろくて笑っていましたが、今考えるとすごく怖いことだったと思います。もし、うしろから自動車が来ていたら……。死んでいたかもしれない。弟はその時はひざをすりおいただけで済みましたが、慌てて行くのは本当に危険だと思います。時間に余裕をもって行動するようにしたいです。

『一度だけ』『少しだけ』そのほんの一瞬の気のゆるみが予想外の事故を起こします。スマートフォン以外にもナビの操作や交通ルールを守らない。自分や他人の命を守るためにも自転車や将来自動車に乗った時は、責任をもって運転したいです。

一人が少し気を付けるだけで減る事故はたくさんあります。『自分は大丈夫』だと思ってもいつ、どんな所で事故が起こるのかわかりません。誰もが事故に遭うことはありませんが、事故に遭わないとは言いません。どんなものより命が一番大切です。

みなさんも一度、自分の行動を見直してみてください。  
きっと、改善点が見えてくるはずですよ。

交通事故のない安全な街をつくりましょう。

# 『お母さんとの約束』

寿恵野小学校 四年 谷澤 瑛斗

ぼくの通学路には、信号機のある横断歩道があります。毎日その道を通って、友だちと学校へ行っています。

一年生になった時、お母さんに手をひかれ通学路を通じて学校へ行きました。その時お母さんが

「この横断歩道は、青信号でもあぶななから気を付けなよ」

と言われました。ぼくは、

「いつか、青信号は渡ってもいいんだよ。」

と聞きました。ある日、

「お兄ちゃんが一年生の時、青信号にかわって渡っていたら朝会社に行くおじさんの車が青信号になったのと同時に勢いよく曲がってきたので、お兄ちゃんはお母さんの目の前で車とぶつかって倒れたんだよ。」

と、ぼくはビックリしました。それからお母さんとぼくは、

「だから信号がかわっても、一息おいてから左右のかくんをして渡りななな。」

と教えてもらいました。そしてもう一つ

「信号を待っている間は、横断歩道のギリギリの所ではなく少しはなれた所で待つように。」

と言われました。これもいつか聞かへん、

「速いスピードで曲がっている車が曲がりすぎて道をオーバーしてきたら、ぶつかってしまったり、大きなトラックも通るからな。」

と教えてもらいました。

この交差点では、時々曲がりそこなってしまうガードレールにぶつかってしまったり、車がいることをお母さんは知っていたので、ぼくに教えてくれたのだと思います。

ぼくは毎日気を付けていたのですが、ある日一緒に通っていた友だちが横断歩道のギリギリの所に立っていたので、

「あぶないから下がったほうがいいよ。」

と声をかけて下がった時、大きなトラックが道のギリギリの所を通ったのでぼくら二人は

「ビックリした。あぶななかったね。」

と、改めて気をつけようと思いました。

あれから四年、ぼくはお母さんに言われた事を毎日きちんと守っています。そのおかげで、車とぶつかる事もなく元気に学校へ登校できています。そして四年間、毎日気を付けていたのでその横断歩道だけでなく、いろんな所へ行っても

「赤信号で待つ時は道路からはなれて待つ。」

「信号がかわっても、すぐに歩き出さず少し待ってから左右のかくんをして渡る。」

と、いつか身につけています。

これからも、横断歩道を渡る時にはお母さんとの約束を守っていきたくと思います。

## 『交通事故体験文』

前林中学校 三年 小川友唯奈

「バーン！」

その瞬間、車内に悲鳴が響きました。

「夢じゃないよね、夢じゃないよね？」

私は何が何だか分かりませんでした。

「大丈夫？」

「痛いところはない？」

と言いながら母は私をやさしく抱きしめて、安心させてくれました。

それは今から半年ほど前の出来事です。部活の大会帰りの夜道、母の運転する車が丁字路にさしかかったところで左からヘッドライトの光が見えました。私はその車は止まるはずだと思っていました。しかし、その時、

「あっ、危ない!!」

止まるはずだと思っていた車は止まっておらず、そのままの勢いで私たちの車の側面に突っ込みました。何が起こったのか理解するまでにしばらく時間がかりました。相手の運転手が、

「大丈夫ですか。」

と、声をかけてくれましたが、それにも応えられないほど何もかもが怖くておびえていました。そしてずっと、横からのヘッドライトの光が見えてからぶつかった衝撃を感じるまでの数秒間が、頭の中でただ繰り返されるだけでした。

ぶつかった衝撃で首に違和感を覚え、救急車で病院に運ばれることになりました。私にとっては初めての救急車だったため、不安でいっぱいでした。目を閉じてても、母の手を握っていても、楽しいことを考えようとしても、あの時の光景が頭から離れませんでした。

病院に着くとレントゲン室に運ばれました。検査の結果、重傷ではなかったのに家に帰ることができました。家に着くと安心して自然と涙があふれました。

次の登校日、いつも通りに仲の良い子と一緒に自転車で学校に向きました。時間の余裕はたくさんあるのに友達はずいスピードで走っていました。しかし、

「ゆい、遅いよ。」

と言われたから気づきました。私は事故に遭ってから、とても安全運転になっていたのです。やがて、その友達に置いていかれてしまいました。私は最後まで安全なスピードで走りました。いつもは車通りの少ない交差点もしっかりと止まって安全を確認してから通りました。このように私は、交通事故を体験してから交通ルールを見直し、安全運転を心がけるようになりました。

今でも、自然に事故現場の道を避けてしまいます。近くを通ったり、似ている道を見ついたり、事故当時のことを思い出したりするととても胸が締めつけられます。私が事故直前に見た光景と同じような場合に出会うと心臓がドキッとします。

この事故を通じて、私は安全性に対してとても敏感になりました。事故当時は母も私もシートベルトをきちんと締めるなど、ルールを守って乗っていたので大きな怪我をしなくてすみました。もしもルールを守っていなかったら、今私は生きているかどうか分かりません。なので車に乗ったら必ずシートベルトを締めて、安全な状態で乗りたいです。私がよく使う自転車ではヘルメットを忘れずにかぶるようにします。

交通安全に努めるということは、時に面倒だと思つこともありますが、交通事故の恐怖を身をもって実感したので、これからも安全に気をつけていきたいです。



## 『身近な事から学んだこと』

豊田高等学校 一年 澤野友暉

3694人。何の数字だと思えますか。昨年、1年間に交通事故で死亡した人の数です。私たちの住んでいる愛知県だけでも200人も人が交通事故で亡くなっています。

新聞やニュースで交通事故が報道されない日はほとんどありません。でも、身近な人が事故にあったりしていないと、なかなか実感がわかないけれど、200人といえば学校の5クラス分の人たちが1年間に交通事故で亡くなっていることになり、とてもたくさんの人が交通事故の犠牲になっていることがわかります。警察庁の統計では昭和23年以降で最少だったそうです。かつて交通事故死者数が年間1万人を超えて「交通戦争」と称された時期に比べ大幅に状況が改善されてきましたが、近年は高齢者人口の増加等を背景として交通事故死者数の減少幅が縮小する傾向にあるそうです。

そういえば近頃、交通事故のニュースでよく見かけるのは、アクセルとブレーキを踏み間違えて店舗や、通学途中の子供たちの列へ突っ込むなど、高齢運転者が関わる痛ましい事故がたくさん発生しています。

大都市以外の多くの地域では車は生活必需品であり、近年、増加傾向にある高齢者だけの世帯では、身体の衰えの自覚の有無にかかわらず、生活のために車の運転をやめることができない状態となっています。

大阪に住んでいる私の祖父もこの春、運転免許を返納しました。祖父は今年85歳になります。免許を取ってから50年以上、無事故無違反だそうです。

これまででは買い物や畑へ出かけるのは、いつも車で自分の好きな時に行くことができたのが、免許証を返納したら徒歩やバスで出かけるなくてはならず、さらに重い物やたくさん荷物を運ぶときは、とても不便に

なっただけです。

このように車は生活していくうえで、とても便利で公共交通機関を利用するときのように時間を気にすることなく、自分の好きなときいつでも行きたい場所へ自由に行くことができます。

しかし、そんな便利な車も運転操作を一步間違えれば、たちまち凶器となり重大な事故を引き起こすこととなります。

私の祖父は、年を取っているが運転は上手だし、まだまだ運転していても大丈夫だと思っていました。でも、祖母や私の両親は、高齢者の運転する車に関係する事故を聞いた際に、とても心配していたようです。

高齢になると、車を運転する上で必要となる認知、判断、操作に遅れやミスが生じやすく、走行している車では一瞬の判断や操作ミスが事故の原因になるからです。

車を運転しないことで、祖父母の生活はこれまでより不自由なことが増えると思います。

でも、もし運転を続けて、いつの日か大きな事故を起こしてしまい、自分が怪我をしたり他人を傷付けてしまうよりも、祖母や両親、そして私も安心して生活を送ることができそうです。

自分の生活が不便になるのに、運転免許証を自主返納した祖父は立派だと思っています。

これまで、私が遊びに行ったときは、近くの駅まで送って行ってもらったり、買い物に連れて行ってもらうたりしていましたが、これからバスで出かけることになりました。

私はまだ運転免許は持っていますが、交通社会の一員として道路を通行するときは、交通ルールを守ること、常に周囲の状況に注意すること、自分勝手な行動をとらないことを心掛けて安全を第一に過ごしていきたいと思っています。

## 『みんなでまもるごきょうりゅうルール』

衣丘小学校 一年 田中 いづみ

わたしのしゅがくるには、ほろいみちをわたらなければいけません。それがあります。

おとうさんとおかあさんは、「車をよくみて、とびだしをしないで。」とゆいります。そしてとびだすといわいかおほおほります。

おつだんほごうをわたるときも、「手をあげて。」となんかいもいります。

わたしが車にのっているとき、小さいことがとびだして、おかあさんはブレーキをふみました。わたしはびっけりしました。

ほかのときに、ちがう小がごきょうりゅうのことがをあげておつだんほごうをわたろうとしているのがみえました。車はとまりました。

とびださない、てをあげる、はだしいなことだとおもいました。

わたしがけがをしたら、かぞくもかなしむだるうなあとおもいました。たのしいことができなくなるのもいやです。

いまはとびだしをきをつけています。

しゆいきもちでとびだしはしないようにしたいです。

たいせつないのち、みんながごきょうりゅうルールをまもれば、まもれるのちがいっぱいあるとおもいます。

まずはわたしからごきょうりゅうルールをまもります。

そして、おとうさんとまわりの人におしえてあげたいです。



## 『自転車の下校で』

小原中学校 一年 志知雅菜香

私は今年中学生になって自転車で登下校しています。しかし、自転車の登下校は、とても危なく、まだ学校生活は三か月なのに、自転車に乗っている一年生は、ほとんどケガをしています。

私も、一回だけ自転車に乗っていてケガをしたことがあります。

その日は、雨で道がすべりやすかったです。なので、下校は友達と先輩と一緒に帰るようになりました。

私は列の最後で、みんなはかなりスピードを出していたので、おいつかなきゃいけないと思い、急いで自転車をこぎました。そしたら、道路と道路の亀裂の隙間に自転車のタイヤがハマってしまい、頭からこけました。

幸いその時はヘルメットとカップを着用していたので手のひらをするくらいでした。

でも自転車はかなりポロポロになってしまい、カゴはグニャグニャに変形していました。ヘルメットは上の方がガリガリとけずれていて、カップは腕の部分が少しやぶれていました。

私はそれを見た時、もしヘルメットとカップを着用していなかったらと思うと、とっても危ないことをしたんだなと思いました。

私は、このことをきっかけに、自転車に乗る時はスピードを抑えることに心がけるようになりました。

私は、友達や先輩にもそのことを話して、安全運転にしよううようにしました。

それからは特に何もなかったのですが、一年の先輩がよそ見をして、ガードレールに当たってケガをしました。がありました。

その時は、私は少しまよっていたので見ていなかったのですが、友達

が先輩と歩いて帰っていたので、話を聞くと、ガードレールにぶつかった衝撃で自転車が曲がってしまったそうでした。後日、その所へ行くと、黒くまっすぐでできたようなあとがありました。

そのあとを見た時、私は自転車はとても危険な乗り物で、乗っている人が気をぬくと、とても危ないことがあるんだと思いました。

それから、友達がケガをすることはよくあって、自分もケガをしてしまわないように安全運転に心がけました。ですが、その後にとってもわかった出来事がありました。

それは、友達が早く帰らなくてはいけない用事があった、急いで帰っていた時です。

友達が、急ぎすぎて大きなカーブを曲がりきれず、目の前の車と衝突しそうになったことです。その時、私は後ろにいて、車に当たりそうになった瞬間、「危ないっ」と大きな声で叫びました。

その時、私の頭の中は一度真っ白になりました。でもすぐに戻って友達のところに行きました。友達は「あー危なかった」と言っていて、車に乗っていた人に謝って帰りました。

友達がケガはなかったけれど、かなり、危ないことをしたと思います。私たちが住んでいる所は田舎なので、あまりこつこつした事故は起こりにくいのですが、森に囲まれているので自然災害に巻き込まれたりすることもあると思います。

なので、日々生活をしていく中で安全を第一にして、危険なことはさせ、自転車に乗っている時以外にも自動車に乗っている時や歩いている時にも安全を心がけて日々生活していきたいと思えます。

特に私は自転車通学で平日は毎日自転車に乗るので、日々、何が起きてもおかしくないと気引きしめて安全運転に心がけて、自転車を運転していきたいです。

## 『視野の広さ』

豊田西高等学校 一年 西辻優衣

あの日は、人生の中で一番家族が悲しさに覆われた日だったと思う。私が小学校五年生の時だ。目を覚まして、一階に向かうと、一本の電話が鳴った。「和暉くんが自転車で行行中に車と衝突しました。」私の兄が交通事故に遭ったという話だった。まさか、と私と母は思った。私は兄が心配で仕方がなかったが母に「お兄ちゃんは大丈夫。」と言われ、とりあえず学校へ向かった。その日は、何をやっても、兄が無事だったか、不安と悲しさでいっぱいだった。帰ると、足に包帯を巻いた兄が、疲れた様子で寝ていた。後から母に話を聞くと、兄は青信号が点滅していて急いで横断歩道を渡った時、車と衝突したそうだ。兄はヘルメットを被っていたので、大怪我には至らなかった。事故が起きた時、両者ともに共通点があった。それは、急いでいたということだ。交通事故の怖い所は、心の中の状態は同じであっても、乗る物によって被害者にも加害者にもなってしまう点だ。兄は「ちゃんと右、左を確認してから渡れば、こんな事にはならなかった。」と何度も言っていたのを今でも覚えている。

私も中学校の頃は、自転車通学だった。目の前で車と衝突した人を見たことがあるし、実際私が、雨の日に滑って転び、膝から大量の血を流したこともある。ここから言えることは、二つだ。

一つ目は、どんな時でも交通事故は起こりうるということだ。私は転んだとき、急いでなかった。また、ながらスマホをしていたわけでも、友達と話していたわけでもなかった。しかし、転んでしまった。もし、自転車の倒れた方向が悪く、車道側に出て車にひかれていたと思うと、身震いがする。交通事故というものは、遠い存在に見えるが、残念ながら身近なものだ。私の住んでいる愛知県では、交通事故の発生率が

一位なので尚更だ。自分や家族を傷つけないためにも、交通事故は誰にでも起こりうるということを頭においてほしい。

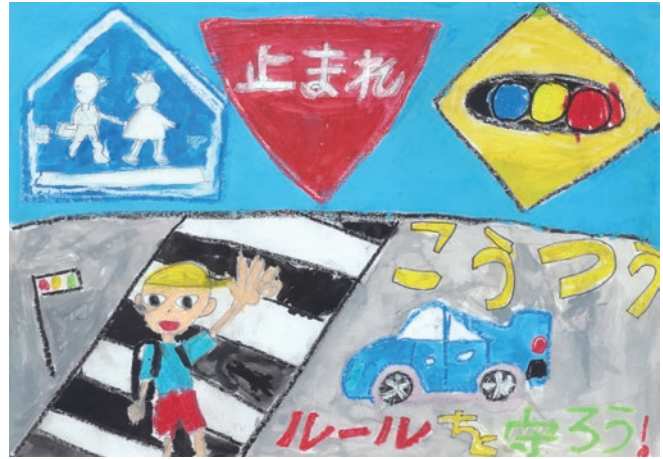
二つ目は、心の状態を安定させることが何より大事であるということだ。もちろん、心の状態が安定していても事故は起こってしまう。しかし、何かしらの理由で、不安定であれば事故の発生率は数十倍ほどに上がるといわれている。心が安定していなければ、余裕が無くなると私は思う。そうすると、視野が狭くなり、いつも出来ることが無意識にできなくなるのだ。私の兄も「急がなければ。」という一心だった。いつもなら左右を確認するのに。もしかしたら、みなさんの中には、兄はたまたま車と衝突して運が悪かったと思う人もいるかもしれない。しかし、それは運がある・ないの話ではない。兄が事故に遭った原因はちゃんとあるからだ。一瞬の間の視野の狭さである。兄が寝坊したのはその日だけだった。そして、急いでいて注意力が欠けていた。いつもは出来ているのに、という言い訳は通用しないのだ。また、交通事故は人に迷惑をかけてしまう。事故の起きた場所が通行止めになれば、多くの人々が仕事や用事に遅れてしまいかもしれない。なにより、一番に心配をかけるのは家族だ。もちろん、私は兄の事故は迷惑だなんて思っていない。でも、私の心の中ですっと雨が降り続いていった。そして、兄もしばらくの間、自転車に乗ることが怖くなった時期もあった。

私は交通事故が一件でも減ることを切に願っている。そのためには、何かしらの交通機関を使用するときは、周りを見ることが大切だと思う。焦っているときは、一回深呼吸をして、落ち着きを取り戻すことが絶対に必要になってくる。また、自分の身の周りの人の心の状態が不安定であれば、自分から助けに行つてあげてほしいと思う。少し視野を広げること、心の余裕がでてくる。そうすれば自分のことも客観的に見えるようになってくるはずだ。そう思うと、交通事故は日本人の思いやりの心があれば、もっと減らせると私は確信している。





優秀／今井 魅力 (四郷小1年)



優秀／西山 璃音 (根川小1年)



優秀／高島 小桜 (朝日小3年)



優秀／山本 奏太 (若園小2年)



優秀／山本 新菜 (敷島小3年)



優秀／岩下 琴実 (堤小3年)





優秀／山崎 勇磨 (東広瀬小6年)



優秀／谷澤 瑛斗 (寿恵野小4年)



優秀／渡口 いろは (崇化館中1年)



優秀／原田 泰正 (前林中1年)



優秀／村田 かほる (豊田西高1年)



優秀／青井 あやな (電神中1年)





佳作/北原 颯太 (根川小1年)



佳作/橋本 葵 (駒場小1年)



佳作/尾崎 恵彩 (根川小2年)



佳作/永井 美玲 (四郷小2年)



佳作/笹木 蒼太郎 (平和小2年)



佳作/石川 空愛 (平井小2年)





佳作／近藤 里乃杏 (畝部小3年)



佳作／熊沢 優吾 (元城小2年)



佳作／戸神 亜音 (平和小3年)



佳作／白石 愛理 (寿恵野小3年)



佳作／多和田 一輝 (駒場小5年)



佳作／勝上 瑠己 (飯野小5年)





佳作／伊藤 美空 (山之手小5年)



佳作／久野 綺音 (野見小5年)



佳作／後藤 愛 (朝日小6年)



佳作／寺田 陽香 (若園小5年)



佳作／岩下 花帆 (堤小6年)



佳作／長谷川 慶紀 (土橋小6年)



佳作／山田 芽玖美 (猿投台中1年)



佳作／井上 侑来 (中山小6年)



佳作／平野 由真 (小原中2年)



佳作／大山 隼世 (高岡中1年)



佳作／上田 優花 (高橋中2年)



佳作／樋口 ゆら (猿投台中2年)





佳作／内藤 千恵子 (若園中2年)



佳作／廣嶋 萌可 (豊南中2年)



佳作／酒井 未来 (豊田西高1年)



佳作／松元 杏樹 (豊南中3年)



佳作／笠井 美穂 (猿投農林高3年)



佳作／内藤 舞 (豊田西高1年)

# 交通安全標語の部

最優秀作品 豊田市交通安全市民会議会長賞

おたがいの やさしい気持ちが 事故ふせぐ

井上小学校 5年 梅村 宗純

◎は優秀 ○は佳作

## 《歩行者の交通事故防止》

◎あぶないよ フザケあるきは じこのもと	高嶺小学校	2年	永田 隼聖
◎とび出さない いのちの一つだ 大切に	古瀬間小学校	3年	畑 和希
○歩行者も 目配り気配り 礼儀よく	聖心町		平山 千代子

## 《子どもと高齢者の交通事故防止》

◎おとうとの みほんになりたい こうつうマナー	竹村小学校	3年	西野 司人
◎ゆとりもて ぼくも車も 朝の道	山之手小学校	3年	水嶋 晃士朗
○小さな手 ビシッとのおせば 大きな手	岩倉小学校	3年	奥田 陸久
○子どもの「背」 車から見たら 見えない「背」	若林西小学校	6年	吉岡 香澄

## 《自転車の安全利用促進》

◎自転車も 加害者になること 意識して！！	朝日小学校	5年	鈴木 佳蓮
◎ヘッドホン 危険サインも 塞いでる	前山小学校	5年	中島 悠陽
○自転車の 速度マックス 身があぶない	岩倉小学校	4年	田中 美羽



《運転者の安全運転促進》

◎ゆずり合う 心のゆとりで ふせぐじこ	朝日小学校	3年	横山 昂生
◎煽り運転 あなたの道では ありません	若林西小学校保護者		亀井 雪枝
○のっかるな あおりうんてん じこのもと	大林小学校	2年	伊左治 ひまり
○車かんきより あけるゆとりと 思いやり	御作小学校	2年	水野 倅雪
○先どうぞ 目と目であいず ゆずり愛	浄水北小学校	6年	山本 陽菜
○「酒強い」 通用しない そんなこと	末野原中学校	2年	伊藤 望央
○持ててるか 心のゆとり 車間距離	豊田高等学校	3年	南里 春樹

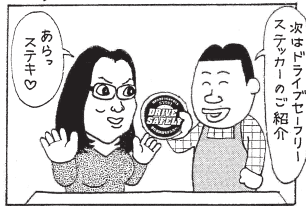
《全席シートベルト・チャイルドシート着用の徹底》

◎みみすませ 「カチャッ」のあいずで しゅっぱつしんこう！	伊保小学校	1年	榊原 菜乃
◎カチッとね しめるベルトが ぼくまもる	大林小学校	2年	武富 凜夢

《交通安全全般》

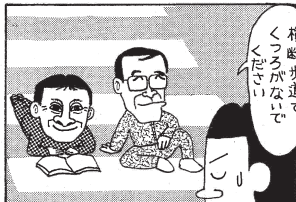
◎ゆずり合い あなたの優しさ 見せる時	豊田工業高等学校	1年	尾関 章太郎
○ちょっとまで あとでいいよね そのスマホ	若林西小学校	3年	加藤 虹海
○道路では 走るな 遊ぶな ふざけるな	四郷小学校	5年	板倉 悠雲
○着信音 その手は待った 運転中	若林西小学校	6年	伊藤 晴彦
○ケイタイに とりつかれるな 大人達	若林西小学校	6年	神蘭 太郎

それいけ! 安全君 by K太



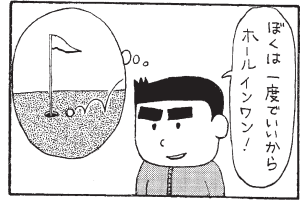
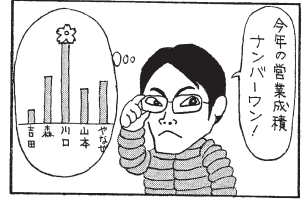
「歩行者保護モデルカー活動」を推進しています

それいけ! 安全君 by K太



横断歩道でもしっかり安全確認を!

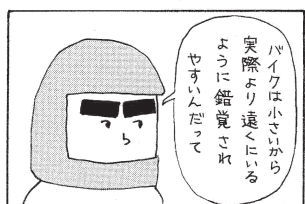
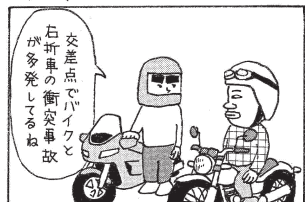
それいけ! 安全君 by K太



今年こそワースト1を返上しよう!

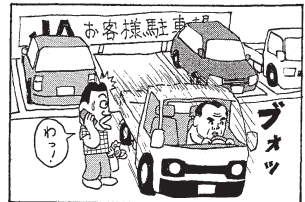
交通安全まんが

それいけ! 安全君 by K太



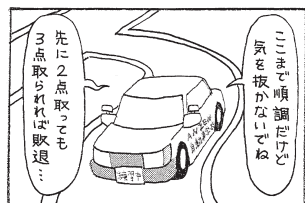
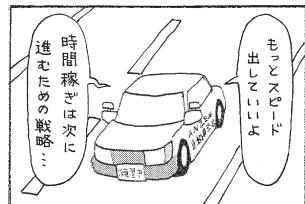
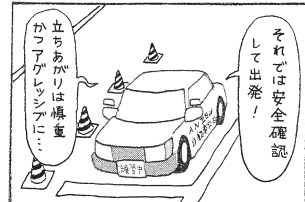
二輪車の交通死亡事故が多発しています!

それいけ! 安全君 by K太



高齢者の運転事故が増えています!

それいけ! 安全君 by K太



次こそはベスト8進出! 交通死亡事故ワースト1返上!

それいけ! 安全君 by K太



あおり運転は交通違反です!

# 平成30年度 交通安全作品 応募・審査結果

## 交通安全作文の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校 (低)	7	1	1	0
小学校 (高)	8	1	0	0
中 学 校	122	2	1	0
高校・一般	107	2	1	0
合 計	244	6	3	0

## 交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校 (低)	1,481	1	6	10
小学校 (高)	1,681	2	2	9
中 学 校	850	2	3	8
高校・一般	309	1	1	3
合 計	4,321	6	12	30

## 交通安全標語の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校 (低)	1,952	0	7	4
小学校 (高)	2,007	1	3	6
中 学 校	564	0	1	1
高校・一般	1,937	0	0	2
合 計	6,460	1	11	13

## 総計 (作文・ポスター・標語)

	応募数	応募学校数
小学校 (低)	3,440	68
小学校 (高)	3,696	
中 学 校	1,536	23
高校・一般	2,353	4
合 計	11,025	95





## 足助警察署長賞



鈴木 智也 (大蔵小1年)

## 豊田市教育委員会賞



中島 咲那 (中山小4年)

## 豊田市交通安全 市民会議会長賞



小澤 一輝 (竜神中1年)

豊田市交通安全市民会議事務局

豊田市役所 交通安全防犯課内

〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60

TEL:0565-34-6633 FAX:0565-32-3794

HP <https://signal.toyota.aichi.jp/>

